

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491900062	事業の開始年月日	H21年10月1日
		指定年月日	H21年10月1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター衣笠		
所在地	(238-0032) 神奈川県横須賀市平作5-10-7		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	平成27年1月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中 お客様の機能訓練・趣味・嗜好にあわせた活動を行い毎年 秋に開催するニチイ祭りでは地域の方々に気楽に来訪して頂いて交流をしホームを身近に感じて頂き 地域密着を第一に考えている

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年11月12日	評価機関 評価決定日	平成27年1月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所概要】 この事業所は、JR衣笠駅または京急汐入駅からバスで5～10分の場所にある。周辺は落ち着いた住宅地で、近くに公園や小学校がある。2階建て2ユニットのグループホームで、内部は季節感のある小物や行事等の写真を飾っているが、過剰な飾りつけは避け、落ち着いた雰囲気を作っている。 共用型デイサービスを積極的に活用しており、地域のニーズを踏まえ、今後も推進する意向である。</p> <p>【食事を楽しむ工夫】 食事は、職員が利用者の意見を聞きながらその都度メニューを作り、食材を揃えている。調理には利用者も積極的に関わっており、訪問調査当日も、デイサービスの利用者も含め、包丁仕事や盛り付け、配膳を行っていることを確認できた。職員は、同席しながら介助や利用者への声かけ、働きかけをしており、利用者同士の気づかいが感じられる食事風景であった。</p> <p>【地域との関わり】 今年度の目標の一つとして、地域の小中学校との交流推進を揚げて取り組みを進めた結果、中学校生徒の職業体験を受け入れることができた。行事等での交流の他、ゴミ捨て場をホーム敷地内に変更して、掃除を職員が行うなど、地域に受け入れられるよう努めている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	(株) ニチイ学館 ニチイケアセンター衣笠
ユニット名	ラン・カトレア

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	休憩室に事業所理念を掲げてあり業務に入る前に各自 唱和している	2階の休憩室に法人の社是を掲示し、業務開始前に唱和している。事業所の理念は「高齢者の尊厳保持」で、職員は利用者の希望実現に、リスクを考慮しつつ努めている。自分の希望や意向を表明できない方についても、対応できるように配慮している。	各職員が理念を実際の行動に反映できるように、具体化していく取り組みを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会・行事がある時に参加して頂きお客様の日々の状況を把握して頂いている	平作5丁目町内会に加入し、盆踊りや学区運動会、菖蒲祭り花火の会などの行事に参加している。今年度のニチイ祭りでは開催を積極的にPRし、地域から多くの参加を得た。今年目標である小中学校との交流を推進し、近隣中学の職業体験学習を受け入れた。地区のゴミ捨て場をホーム敷地内に変更して、掃除を職員が行うなど、地域に受け入れられるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ニチイ祭りを毎年 実施し地域の人々がホームへ気楽に来れる時間を作り理解を求めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域包括の方 年1回参加願いたい勉強会等に協力願いたい 地域の役員の方等に助言等頂きサービス向上に活かしている	会議には、民生委員・町会長・オーナー・家族会代表・横須賀市（年1回、4月参加）・地域包括支援センター等が参加している。8月の会議では、地域包括支援センター職員を講師として「地域の介護の状況」について勉強会を行い、家族5名の参加を得た。会議での意見から避難訓練を年3回に増やすなど、意見を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修に参加 わからないことや困難事例等 相談している	デイサービスの無料体験の実施や、認定前のサービス利用などの件で、横須賀市の監査課職員に相談している。市の主催する研修に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に禁止事項を正しく理解するよう取り組んでいる	法人の高齢者虐待防止マニュアルを使って、身体拘束廃止について年1回研修を行っており、今年12月に開催する。11月28日には市主催の研修に職員2名が参加する。玄関やユニット入口の鍵は、利用者の状況によって一時的に施錠することはあるが、日中は原則かけていない。夏場は玄関を開けて暖簾をかけることもある。利用者の外出は玄関のセンサー等で察知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内・社外の研修に参加しミーティングにて全職員に周知し虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修にて勉強している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に質問等 受け納得してもらっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年 会社で顧客満足度調査を行い 家族会を開き話し合いの場を作っている	法人が実施する顧客満足度調査で出された意見を運営に反映している。「毎月のお知らせに、利用者の様子が分かるように写真を掲載して欲しい。」という意見があり、掲載を実施した。日帰りバス旅行の要望があり、検討の結果全員参加が難しいことやリスクを考えて、代案として近場の外出機会を増やすことにした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを開き意見交換している	ミーティングでは職員の意見を聞く他、勉強会や事例検討も行っている。外食などについて職員から意見があり、利用者の状況に応じて、できる範囲で実現に結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的なキャリアアップ制度にて面接・試験合格者には賃金アップに努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小規模他事業所連携事業の一般研修に参加させている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている事・不安なこと等をお聞きし対応できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪・電話等にて相談受け対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人が強く求めているニーズをプランに載せ支援している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅にいた時と同じ様に共有部分を多くし支えあっている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時・電話等にて相談させて頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話・面会等にて関係が途切れないようにしている	親戚や近所の方が訪ねて来た際は、居室に案内し、お茶の接待をしている。外出時に近隣のスーパーや公園で知り合いの方が声をかけてくれることもある。新聞の購読や携帯電話の所持など、入居前からの生活継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間作りにて職員が間に入り支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にいつでも介護相談しますと一声かけているが今までそういった相談はなし		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日のかかわりの中で気持ちを汲み取り把握に努めている	入居時にはセンター方式のアセスメントシートを家族に記入してもらっている。入居後は必要に応じて、変化の経過が分かるようにペンの色を変えて追記している。利用者の意向は日常の会話の中からくみ取ったり、難しい方は家族から聴くなどして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し職員間で共有し把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日常の状態・体調等記録し把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングしカンファレンスを開き計画作成している	個人ファイルに介護計画を綴じて各フロアに置き、職員がいつでも確認できるようにしている。計画は短期6ヶ月、長期1年で見直し、変更内容や特記事項は申し送りノート等で職員に伝達している。計画の実施状況は業務日誌に記載している。家族には毎月支援経過記録を送付して、利用者の状態を伝え、意見を聞いている。	どの職員でも同様のケアが出来るように、計画の目標をより具体的に設定することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	書式に残し共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況・その時々々の要望に応じ対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自分のことはご自分でお互い支え・助け合いながら生活を楽しんでいる		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度 内科医 1週間に1回 歯科医 1週間に1回看護師が来訪し スムーズに医療が受けられるよう支援している	協力医療機関は24時間対応が可能で、ほとんどの利用者がかかりつけ医としている。他のかかりつけ医を受診している方も2名おり、その際は家族が同行している。診察の内容は家族から聞き、介護記録等に記録して情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ノート等を活用し情報を共有し時には 介護のアドバイス・助言等を得られている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員等と連携をとり情報交換している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の方に協力願ひ ご家族と話し合いの時間を確保家族の意向・御本人の意向に沿えるよう支援している	希望があれば重度化対応をする方針で、これまでに2～3人の方に対応したことがある。入居時に利用者・家族と医師が面談し、医師が重度化対応について同意書を受け取っている。その後も、「食事が取れなくなってきた」など、状態に変化があればその都度話し合いをしている。職員研修は法人研修および事業所内研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時はすぐに救急要請 するよう周知している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に3回し実行し非難場所を職員に周知している	今年度は3回訓練を行う方針である。1回目は6月に消防署立ち会いの訓練を行い、2回目は10月に夜間を想定した訓練を実施した。昨年、今年度は地域の訓練への参加は無い。備蓄は、飲料水、食料を3日分（職員分含む）備え、チェックリストで期限を管理している。その他の備品についてはカセットコンロ、ラジオなどがある。	利用者の見守りや消防団との連携など、災害時の地域との協力について働きかけを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所理念を念頭に言葉かけをしている	職員は採用時研修、接遇マナー研修等で利用者への対応を学んでいる。言葉遣いは、利用者は目上の方である事を念頭に置きつつ、家庭での呼ばれ方などを考慮し、個別に対応している。コンプライアンス・個人情報保護についてのテストを全職員に毎年実施し、理解を深めている。保険証など貴重品の持ち出し・返却はチェックリストで管理して紛失を防いでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望にかなう対応を心がけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活できるよう希望にそっている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服選びを共有し整容にもきを使っている			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の好みを聞きできる方と共有している	献立は、利用者の希望を聞くなどしてその都度職員が作っている。食材は、利用者と一緒に近所に買いに行き、重いものは近隣スーパーの配達を利用している。包丁を使った調理、盛り付け、配膳などをケアプランに位置づけている方もおり、当日もその様子を確認できた。職員は、同席しながら介助や利用者への声かけ、働きかけをしており、利用者同士の気づかいが感じられる食事風景であった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みに合わせ形態等を変えながらしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕は徹底しているが昼に関しては御本人に任せている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し誘導している	排泄チェックリストを使い利用者ごとのパターンを把握し、声掛けをして誘導している。仕草や臭いから察知したり、時間を決めた誘導もしている。トイレの表示は大きく「トイレ」や「便所」など何パターンか用意し、認識しやすいように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬により排便コントロールしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間希望は答えていないが毎日入浴はしている	入浴回数は週2~4回で、1日4~5人が入っている。希望があれば毎日の入浴も可能である。浴室は家庭用だが、必要に応じて2人介助もしながら、全員が浴槽に入っている。脱衣室にエアコンがあり、冬場のヒートショック対策をしている。シャンプーなどは好みのものを使用している方もいる。入浴を好まない方は現在いない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のその日の健康状況に考慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書にて把握している わからない時は薬剤師に問い合わせしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなこと得意なことが楽しめるよう心がけている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩にはでかけている 町内等でイベントがある時 でかけている	天候を見ながら、近隣への散歩やスーパー、ドラッグストアへの外出を支援している。近くの公園におやつ持参で出かけてたり、その公園で花見をしたりしている。車いすを使用している方も一緒に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいにてこちら管理してほしい物がある時は一緒に買い物に行き支払いは見守りでやっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方はご自分で管理している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に生活できるようしている 季節感もあじわえるように配慮している	リビングには季節感のある小物や行事等の写真を飾っているが、落ち着いた雰囲気を作るため、また防災も考慮し、過剰な飾りつけは避けている。キッチンリビング側にも調理ができるカウンターがあり、当日も利用者が調理をする様子が見られた。年2回、ハウスクリーニングを専門業者に委託し、全館の清掃をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に座席を替え気分で座っている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人にお任せしている	リビングに直接面している居室が各フロア2室あり、利用者の状態に応じて居室を変更することがある。居室内は、あまり物を置かずさっぱりした部屋や、ぬいぐるみやてるてる坊主などの小物、仏壇、写真等多くの私物が持ち込まれている部屋など、利用者、家族の意向に沿って様々であった。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	4Sを心がけ安全な毎日を過ごせるようにしている			

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター衣笠

作成日 H27年 1月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	事業所理念が難しい 初めてこのお仕事をする人にはわかりづらい	初めてお仕事される方でもわかる言葉で表現する	「高齢者の尊厳の保持」 →「一人 一人の生き方を大切にしてその幸せを求めていきましょう」	今月中
2	26	計画書の長・短期目標がおおまかすぎる	数字等を入れ詳しく記入	1週間に何回 とかわかりやすく記入する	6ヶ月
3	35	防災訓練等 ご近所の参加数が少ない	ご近所の方の参加	防災訓練時 ご近所の方に参加の依頼を願う	1年
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。